

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	芝浦工業大学
整理番号	B14
構想名	価値共創型教育を特徴とする理工系人材育成モデルの構築と世界の発展への貢献

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「私立理工系大学として世界に通用するブランドの構築」を目標に、学修・教育双方の質を保証する価値共創型教育による実践型技術者の育成と、世界水準の大学制度の実現、教育・研究・開発コンソーシアム（Global Technology Initiative (GTI)）の構築を目指す取組である。</p> <p>目標実現のため、東南アジアを中心とする国際的産学官連携ネットワークである GTI コンソーシアムを構築し、それを基にしたグローバル PBL の実施や国際産学共同研究の推進など、他の理工系大学の参考となる先進的な取組が行われている。特に、GTI コンソーシアム参加企業から提案された企業連携型グローバル PBL は、企業が抱える課題をテーマとして設定し、日本人学生と海外学生が協力してその解決に取り組むという実践的なものであり、その単位認定制度も含め非常に特徴的である。これらの取組の成果は、グローバルエンジニアの育成を目指し、日本の工科系5大学が連携する「工大サミット」の設立や、教職員の能力開発のための「理工学教育共同利用拠点」の認定等に現れており、高く評価出来る。また、学長付託型ガバナンスの導入により、推進本部による迅速な意思決定システムの構築と University Global Administrator (UGA) 採用による先導的なプログラムサポートが実行されており、事業推進のガバナンスにも優れていると言える。日本人学生の留学経験者数も飛躍的に伸びており、工科系大学としては比較的女性教員の比率が高い点も評価出来る。</p> <p>一方で、大学間協定に基づく受入外国人留学生数は、特に大学院において必ずしも十分とは言えない。また、年俸制の導入比率など、やや数値目標を下回る項目も認められる。今後、ジョイントディグリー (JD) やダブルディグリー (DD) 協定校数の増加や同評価システムの構築等の大学独自の意欲的な数値目標を達成するためには、更なる具体策の検討が望まれる。私立工科系大学唯一の採択大学として、世界に通じる教育モデルの策定とその波及への努力を期待したい。</p>	